

## 町指定文化財（史跡）

町指定文化財（史跡）について紹介します。

### ★田子前館

呼 び 方／たっこまえたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字田子字風張

所 有 者／田子町

解 説／牛尾館とも言う。明応年間（1500年ころ）、南部家20代信時が引退後、佐々木氏の居館を接收して隠居所兼学問所と定めてから南部家一族の居館となったと伝えられる。信時のあとは光康、高信、信直が館の主となり、信直が第26代当主となって三戸城へ移るまでの約100年間南部氏の居館であった。信直の子でのちに第27代当主となった利直はこの館で出生している。

### ★田子館

呼 び 方／たっこたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字相米字相米向

所 有 者／田子町

解 説／佐々木館とも言う。「慶長御支配帳」に「田子館 二百石 笹木惣左衛門」とある。はじめは現在の田子中学校校地にあった館に居住していたが、これを南部家に譲り、新たに隣接地に館を造営したと伝えられる。

### ★日ノ沢館

呼 び 方／ひのさわたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字田子字野月及び日ノ沢

所 有 者／個人

解 説／南部氏の家臣・日ノ沢氏の居館。日ノ沢氏は南部家の所伝によれば、初代南部光行が入部したとき、いち早く臣従した田子地土であった。慶長年間の「館持御支配帳」に「日ノ沢館 二百石 日ノ沢弥左衛門」とある。

### ★茂市館

呼 び 方／もいちたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字茂市字桜館

所 有 者／田子町

解 説／「慶長御支配帳」に「茂市館 四百石 茂市惣七」とある。九戸戦争に参戦した信直の配下に「四百石十六人 茂市三七」、「岩崎出陣人数定」に「御馬印奉行一騎 四百石 茂市三七郎」と見え、名まえの表記は違っているが同一人であろう。同氏は盛岡に移住したあと、なにかの事情で断絶したらしく、家臣団名簿からも消えている。

★原館

呼 び 方／はらたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字原字諏訪ノ平

所 有 者／個人

解 説／九戸戦争に参戦した信直の配下に「原 半三郎」があり、「半三郎」は世襲名であつたらしい。南部家28代重直代に辰ノ口（現南部町）での鹿狩りで、上級武士に対して無礼を働いたことを咎められ盛岡永祥院で斬罪に処せられ家名は断絶したが、のちに家格を回復し、53石余を給せられる三戸給人となった。

★相米館

呼 び 方／そうまいたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字相米字太田平

所 有 者／個人

解 説／資料的な確証はないが、南部家から賓客として遇された相米弥左衛門の居館と推測される。

★石亀館

呼 び 方／いしがめたて

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字石亀字道地及び館

所 有 者／個人

解 説／南部氏第22代政康の四男紀伊守信房が造営したという。「慶長御支配帳」に「石亀館 四百石 石亀七左衛門」とある。七左衛門は名を直徳といい、信房の孫にあたる、盛岡に移住して信直、利直の家老を務めた。幕末の盛岡藩の悲劇の家老と言われる榎山佐渡は石亀氏の分家である。

★夏坂御番所跡

呼 び 方／なつざかごばんじょあと

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字夏坂字夏坂

所 有 者／個人

解 説／初め関に設置された御番所は、なにかの事情で夏坂集落中央に移転している。南部藩日記の慶安元年（1648）の頃に、「夏坂、詰め能き所の由にて引き候由」とある。

★関御番所跡

呼 び 方／せきごばんじょあと

種 別／町指定文化財（史跡）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字関字関

所 有 者／個人

解 説／天正年間に信直の命により設置されたという。南部藩では番所を「御境番所」と「中番所」に区別したが、当番所は后者で、旅人の素性或荷物の点検を主たる業務とした。

## ★九戸亀千代斬殺の場



呼 び 方／くのへかめちよざんさつのば  
種 別／町指定文化財（史跡）  
選定年月日／1985. 07. 04(昭和60. 07. 04)  
所 在 地／田子町大字石亀字道地  
所 有 者／個人

解 説／天正19年(1591)の九戸戦争で、九戸城が落城したあとの九戸亀千代(政実の子)の消息についてはそれぞれ複数の死亡説、生存説がある。ここ田子は九戸戦争とは直接、関係はなかったはずであるのに、亀千代はこの地で殺害されたとの言い伝えが根強く伝えられており、さらにこのことを裏づけるいくつかの物証がある。

1. 信直の配下の佐藤軍郷がこの場で亀千代を殺害したの古文書がある(田子家文書)
2. 亀千代が着用していたとされる子ども用の胴と笠が現存する。
3. 亀千代の慰霊のための祠と亀千代を祭神とする若宮八幡宮があり、現在も軍郷の子孫が崇敬している。

## ■お問い合わせ先

田子町教育委員会 教育課 社会教育グループ  
郵便番号 039-0201  
青森県三戸郡田子町大字田子字柏木田169  
電 話：0179-20-7070  
F A X：0179-20-7075  
E-mail：takko-kyoiku@town.takko.aomori.jp